

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人子供の家福祉会
施設名	こどもの家保育園
報告者（役職）	仲本 祥高（主任）
住所・連絡先	沖縄県石垣市平得 40-1
	☎ 0980-83-4461
	E-mail qqbe3x79k@space.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

『水とたわむれるこどもたち、^{うみんちゅ}海人ならぬ^{およぎびと}泳人』

○主な助成備品

組立式大型プール、ビート板、水遊び用おもちゃ等

1. 保育計画策定の目的

こどもの家保育園は、沖縄県の石垣島という自然豊かできれいな海に囲まれた小さな島にあり、年間を通して暖かい日が続く地域です。夏の暑い日には、こどもたちの大好きなプールあそびがあり、1カ月半という長い間プールあそびを楽しんでいます。これまで小さな市販のビニールプール2台を活用していましたが、今回の助成金当選に伴って大型プール（組立式）を購入することができ、広々としたプールでのびのびと思いつき体を動かして楽しむことが出来ました。策定の目的としては、プール遊びを通して泳ぐことが大好きになり、そこから南国の美しい海や自然に関心を持ち、地域を、島を愛するこどもたちを育てていくことです。

2. 具体的な実施内容

大型プールを使用してのプール遊びは2歳児クラスから行います。0～1歳児クラスでは水あそびを、2歳児クラスから5歳児クラスまではプールを使用した活動を行います。水の感触や性質、温度を肌で感じて楽しむ中で、泳ぐことへの興味や関心を持ったり、仲間と協力したり、競ったり、プールの中で様々な遊びを楽しめるようになります。またそれだけではなく、水の恐さや危険性を体験を通して学び、プールでのルールを意識して守ろうとしたり、プール前の着替えを自分で行ったり、プール後タオルを使って自分で体を拭くことができるようになったり、0歳クラスから通して就学前には基本的な生活の自律を養っていきます。

プールあそびでのこどもたちの様子

0.1 歳児クラス

水あそびを通して、水の感触や水温の心地よさ、開放的な気持ちの中、安全に配慮しながら、こどもたちが安心して水に親しみを持てるような環境や関わりを大切にし、ゆったりとした活動を行います。



2.3 歳児クラス

・ 2 歳児・・・はじめての大きなプールに開放感を感じながら、水あそびのおもちゃを利用して楽しむ中で、水に体が浸かってあそぶことに気持ちよさを感じ、ストレスなく楽しめる環境を作っていきます。

・ 3 歳児・・・集団で遊ぶ活動を少しずつ用意しながら、こどもたち同士で楽しかったという共感が持てるようなプールあそびへとしていきます。また、プールでの約束事を知り、少しずつ意識して守れるようになっていきます。



4.5 歳児クラス

・ 4 歳児・・・泳ぐことや潜ることへの興味や関心を持てるような活動で、水が苦手な子に対しての配慮も行いながら、“出来た！”という実感が持てるような活動へと繋げていく。

・ 5 歳児・・・ほぼ毎日のプールあそびの時間を確保し、約束事やルールを守りながら、主体的なあそびの中で、水中での身体コントロールの向上や、あそびの中での発見や工夫によって水の性質を学ぶ。また毎日のプールあそびが体力作りへと繋がっていく。

3. その成果と評価

☆プールあそびを通してこどもたちに見られた姿

学ぶ力

水に対しての興味や関心・喜びや親しみが一段と強くなったように感じました。やはりこれまでのプールでは出来なかった、水の中での動きや活動が大幅に変わり、こどもたち自ら様々な動きやあそびを見つけ、水に対する探究心が深まったように感じます。また楽しさだけでなく、水と触れ合う中で、水に対する危険性やルールの必要性への理解を学ぶ機会となりました。

生活する力

・“プールに入る”という目的を持つことにより、プールへ期待を持って登園する姿や、持ち物（水着やタオル）を意識したり、着替えや支度がこれまで以上にスムーズに行えるようになってきました。また、生活に見通しが待てるようになり、プール以外の活動に対しても意欲的に充実した生活を過ごせるようになってきました。

・プール後のさっぱりした感覚を“気持ちいい”と感じるようになったことで、汗を多くかく夏の時期に、こどもたち自身が汗や汚れからくる 快・不快を肌で感じ、衛生面に対して意識できるようになってくる子も出てきました。

関わる力

・様々な活動が行える中で、友達が潜ったり泳いだりする姿を見てすごいと感じたり、仲間から認められることにより自分の自信へと繋げたり、友達が出来て自分には出来ないことが悔しくて、恐怖心と向き合いながら自ら乗り越えようと努力する姿があったり、またそれを応援する友達がいたり、仲間意識をより強くした活動となりました。またそこで学んだことはプール以外での様々な活動へと繋がりました。

・プールでの出来事を親子で楽しそうに話したり、公開日誌（毎日の保育の様子を写真と文章で保護者用に公開する）を通して楽しそうに会話したりする中で、保護者もプール活動に対して興味を示し、ほほえましい会話やコミュニケーションがより一層増えました。

・プールでの約束事やルールを知ること、活動中にルールからずれるようなことがあると仲間同士で伝え合ったりする姿が見られました。

4. 今後の課題と展望

今回は広々とした大きなプールで体を思う存分動かす、水に親しみを持つことを目的としてプール活動を行ってきました。広い面積のプールの分、これまで見られなかった水と触れ合う子どもたちの姿が見られ、また、プールあそびを通じて成長した子どもたちの姿がみられ、とても収穫の多いものへととなりました。

今後の課題としては、プールあそびを楽しむ中にも、年中・年長児クラスでは、泳ぐことと潜ることを基本とした活動へと持っていけるよう、子どもたちが楽しめる内容の活動を用意したり、正しく安全な指導法を職員が身につけていくことです。

以上